

師走の風景

新年を迎える行事

瑛訪 匣探

33

今年もいよいよ師走（しわす・12月）になりました。正月にはじまる年中行事記録により師走の風景を見ることにしましょう。

12月1日は、「川浸（かわびた）り朔日（ついたち）」といって、川に関する行事が行われたといえます。海岸や川岸の家では、ぼた餅をついてこの日の早朝に供えたそうで、川や海にいとされる水神や海神に1年の無事を感じ、水難除けにもしたのでしょうか。昭和20年代初めの記録に見られますが、市内の海岸に近いところでは現在でも行われ

ているのでしょうか。

8日は「事八日（ことようか）」といって、「神社等はこの日より新年の準備に入った」といいます。全国的には「針供養」などがありますが、市内で特別の行事が行われているところはないでしょう。

13日には「煤（すす）払い」つまり大掃除をすることになっていました。この日にすすを払う竹を切り、翌日に行うところもあつたそうですが、大がかりな家では人手を頼んだためかご馳走を出したと記録されています。

江戸時代に日蓮宗僧侶の教

飯高地区の妙福寺では、冬至の日に「星祭り」が行われます。今年は12月21日に予定されているそうで、僧侶らが水をかぶって身を清めた後に檀家や信者の来年の無事平穩などを祈願するそうです。

この行事は星をまつて供養するというもので、飯高神社にまつられる妙見宮（みょうけんぐう）に由来するとされます。

日蓮宗寺院の妙見様をまつるお堂は、檀林で学んだ僧が飯高妙見宮を全国に広めたたされ師走の風物詩といえるでしょう。

民間では25日に新年の松飾りの準備をしたそうで、栄地区栢田では1913（大正2）年から松飾りには小枝を使うことを規約に決めたそうです。

27日から正月餅をつく家もあり、翌日にかけて建物ごとにしめ縄や松飾りをつけ新年を迎える準備を整えたといえます。

こうした年中行事は、農業などが主体であった江戸時代から年間の生活のリズムを生み出す知恵から生まれたものでしょう。

問八日市場図書館 ☎73・3746



妙福寺の妙見堂

育施設であつた飯高寺では、この時期はちよつど冬休み期間でした。例年、12月1日、15日には檀林内の神社を参拝し、20日に講堂内のすす払い、22日に節分の祈願、大晦日は大集會が行われ一年が終わりました。